

令和6年度

授業進度計画

(シラバス)

4年次

学校法人 穴吹学園 穴吹医療大学校

看護学科

目 次

教育課程表	1
カリキュラム構造図	3
4年次	
医療社会経済学	4
英語コミュニケーション	5
コミュニケーショントレーニングⅢ	6
精神看護方法論Ⅱ(生活)	7
精神看護方法論Ⅲ(看護過程)	8
リフレクションⅣ(精神)	9
在宅看護方法論Ⅱ(展開)	10
リフレクションⅤ(在宅)	11
看護管理論	12
国際看護論	13
看護研究Ⅱ(実践)	14
看護の展望	15
救急蘇生法Ⅲ	16
災害看護論	17
看護技術演習Ⅳ	18
総合看護セミナーⅠ	19
総合看護セミナーⅡ	20
臨地実習	
老年看護学Ⅰ実習(認知症・他)	21
精神看護学実習	22
在宅看護論実習	23
看護の統合と実践実習	24

学則第8条 21条関係
別表1-1 看護学科/4年制

(令和3年度入学生) (1/2)

授業科目		単位数	時間数	1年	2年	3年	4年	
区分	教育内容 科目名							
基礎分野	科学的思考の基盤	教育心理学	2	30	30			
		教育原理	1	15	15			
		教育方法論	1	15	15			
		論理的思考の基礎	1	16	16			
		看護物理学	1	30		30		
		情報科学概論	1	30	30			
		コンピュータ情報処理演習	1	30		30		
	人間と生活-社会の理解	医療社会経済学	1	16				16
		倫理学	1	16	16			
		法学概論	1	16	16			
		家族社会学	1	16	16			
		英語コミュニケーション	1	30				30
		コミュニケーショントレーニングⅠ	1	30	30			
		コミュニケーショントレーニングⅡ	1	30		30		
		コミュニケーショントレーニングⅢ	1	16				16
		人間理解の基礎	1	16			16	
手話講座	2	46	46					
小計		19	398	230	90	16	62	
専門基礎分野	人体の構造と機能	人体の構造学Ⅰ	1	30	30			
		人体の構造学Ⅱ	1	30	30			
		人体の構造学Ⅲ(演習)	1	30		30		
		人体の機能学Ⅰ	1	30	30			
		人体の機能学Ⅱ	1	30	30			
	疾病の成り立ちと回復の促進	臨床生化学	1	30	30			
		臨床栄養学	1	30		30		
		健康科学概論	1	16	16			
		感染防御学	1	30	30			
		病理学	1	30	30			
		臨床薬理学	1	30			30	
		疾病治療学Ⅰ(呼吸・循環・消化器)	1	30	30			
		疾病治療学Ⅱ(内分泌・免疫・血液)	1	30		30		
		疾病治療学Ⅲ(運動・腎臓・生殖)	1	30		30		
		疾病治療学Ⅳ(脳神経・放射線・精神)	1	30		30		
	健康支援と社会保障制度	疾病治療学Ⅴ(小児・周産期)	1	30		30		
		リハビリテーション論	1	16		16		
		看護と法律(保険書法・関係法規)	1	30			30	
		公衆衛生学	1	30		30		
小計	社会福祉・社会保障論	1	30		30			
	保健指導論	2	46			46		
	看護疫学・保健統計	1	30			30		
	小計		23	648	256	256	136	
専門分野Ⅰ	基礎看護学	基礎看護学概論Ⅰ(概念・歴史)	1	30	30			
		基礎看護学概論Ⅱ(倫理・理論)	1	30	30			
		基礎看護技術論Ⅰ(共通技術)	1	30	30			
		基礎看護技術論Ⅱ(感染)	1	30	30			
		基礎看護方法論Ⅰ(環境・活動)	1	30	30			
		基礎看護方法論Ⅱ(清潔)	1	30	30			
		基礎看護方法論Ⅲ(食事・排泄)	1	30	30			
		臨床援助技術論Ⅰ(与薬)	1	30	30			
		臨床援助技術論Ⅱ(検査・治療)	1	30		30		
		臨床援助技術論Ⅲ(経過別・症状別)	1	30	30			
		臨床援助技術論Ⅳ(看護過程)	2	46		46		
	リフレクションⅠ(基礎)	1	16		16			
	臨地実習	基礎看護学Ⅰ実習(対象理解)	1	45	45			
		基礎看護学Ⅱ実習(看護過程)	2	90		90		
	小計		16	497	315	182		

別表 1-1 看護学科/4年制

(令和3年度入学生)

(2/2)

授業科目		単位数	時間数	1年	2年	3年	4年
区分	教育内容 科目名						
専門分野 II	成人看護学	成人看護学概論	1	30	30		
		成人看護方法論 I (呼吸・循環)	1	30		30	
		成人看護方法論 II (アレルギー・血液)	1	30		30	
		成人看護方法論 III (脳・代謝)	1	30		30	
		成人看護方法論 IV (消化器・生殖)	1	30			30
		リフレクションII (成人・老年)	1	30			30
	老年看護学	老年看護学概論	1	30	30		
		老年看護方法論 I (運動・腎・感覚器)	1	30		30	
		老年看護方法論 II (生活)	1	30		30	
		老年看護方法論 III (看護過程)	1	16			16
	小児看護学	小児看護学概論	1	30	30		
		小児看護方法論 I (発達段階学)	1	30		30	
		小児看護方法論 II (症状別看護)	1	30		30	
		小児看護方法論 III (看護過程)	1	16			16
		リフレクションIII (小児・母性)	1	30			30
	母性看護学	母性看護学概論	1	30		30	
		母性看護方法論 I (妊娠・分娩)	1	30		30	
		母性看護方法論 II (産褥・育児)	2	46			46
	精神看護学	精神看護学概論	1	30		30	
		精神看護方法論 I (症状別看護)	1	30			30
		精神看護方法論 II (生活)	1	30			30
		精神看護方法論 III (看護過程)	1	16			16
		リフレクションIV (精神)	1	16			16
	臨地実習	成人看護学 I 実習	2	90		90	
		成人看護学 II 実習 (急性期・回復期)	2	90			90
		成人看護学 III 実習 (慢性期・終末期)	2	90			90
		老年看護学 I 実習 (認知症・他)	2	90			90
老年看護学 II 実習		2	90			90	
小児看護学実習		2	90			90	
母性看護学実習		2	90			90	
精神看護学実習		2	90			90	
小計		40	1370	90	390	648	242
統合分野	在宅看護論	在宅看護論概説	1	16		16	
		在宅看護方法論 I (家族援助)	1	30		30	
		在宅看護方法論 II (展開)	1	30			30
		在宅看護方法論 III (技術)	1	30			30
		リフレクションV (在宅)	1	16			16
	看護の統合と実践	看護管理論	1	30			30
		地域看護学	1	30			30
		国際看護論	1	30			30
		看護研究 I (基礎)	1	30			30
		看護研究 II (実践)	1	30			30
		看護の展望	1	30			30
		救急蘇生法 I	1	30		30	
		救急蘇生法 II	1	30			30
		救急蘇生法 III	1	30			30
		災害看護論	1	30			30
		看護技術演習 I	1	30	30		
		看護技術演習 II	1	30		30	
		看護技術演習 III	1	30			30
	看護技術演習 IV	1	30			30	
	総合看護セミナー I	1	30			30	
	総合看護セミナー II	1	30			30	
臨地実習	地域看護学実習	1	45			45	
	在宅看護論実習	2	90			90	
	看護の統合と実践実習	2	90			90	
小計	26	827	30	106	195	496	
総合計		124	3,740	921	1024	995	800

カリキュラム構造図

教 育 理 念

教 育 目 標

統合分野	在宅看護論	在宅看護論概説、在宅看護方法論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、リフレクションⅤ
	看護の統合と実践	看護管理論、地域看護学、国際看護論、看護研究Ⅰ・Ⅱ、看護の展望 救急蘇生法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、災害看護論、看護技術演習Ⅰ～Ⅳ、 総合看護セミナーⅠ・Ⅱ、
	臨地実習	地域看護学実習、在宅看護論実習、看護の統合と実践実習
専門分野Ⅱ	精神看護学	リ精精精精精 フ神神神神神 レ看護看護看護看護 シ学方方方方方 ヨ実法法法法法 ン習論論論論論 ⅣⅡⅡⅠ
	小児看護学	リ小小小小小 フ児児児児児 レ看護看護看護看護 シ学方方方方方 ヨ実法法法法法 ン習論論論論論 ⅢⅢⅡⅠ
専門分野Ⅰ	基礎看護学	リ成成成成成成成 フ人人人人人人 レ看護看護看護看護 シ学方方方方方 ヨ実法法法法法 ン習論論論論論 ⅡⅤⅣⅢⅡⅠ
	老年看護学	リ老老老老老 フ年年年年年 レ看護看護看護看護 シ学方方方方方 ヨ実法法法法法 ン習論論論論論 ⅡⅢⅡⅠ
	母性看護学	リ母母母母 フ性性性性 レ看護看護看護 シ学方方方 ヨ実法法 ン習論 ⅢⅡⅠ
	看護過程	臨地実習 基礎看護学実習Ⅱ
	対象理解	臨地実習 基礎看護学実習Ⅰ
	実践した看護を振り返り探求する	リフレクションⅠ
	与薬、検査・治療、健康レベル、経過別・症状別、看護過程	臨床援助技術論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ
	看護技術(環境・活動・食事・排泄・清潔)	基礎看護方法論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
看護技術(共通技術・安全・感染)	基礎看護技術論Ⅰ・Ⅱ	
概念、機能と役割、歴史、倫理、医療の安全、看護論、国際看護	基礎看護学概論Ⅰ・Ⅱ	
専門基礎分野	看護と法律、公衆衛生学、社会福祉・社会保障論、保健指導論 看護疫学・保健統計	健康支援と社会保障制度
	健康科学概論、病理学、感染防御学、臨床薬理学 疾病治療学Ⅰ～Ⅴ、リハビリテーション論	疾病の成り立ちと回復の促進
	人体の構造学Ⅰ～Ⅲ、人体の機能学Ⅰ・Ⅱ、臨床生化学、臨床栄養学	人体の構造と機能
基礎分野	倫理学、法学概論、家族社会学、英語コミュニケーション コミュニケーショントレーニングⅠ～Ⅲ、人間理解の基礎、手話講座	人間の生活・社会の理解
	教育心理学、教育原理、教育方法論、論理的思考の基礎、 看護物理学、情報科学概論、コンピュータ情報処理演習、医療社会経済学	科学的思考の基盤

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度	授業形態
医療社会経済学	看護学科/4年次	令和6年度	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
8回	1単位(16時間)	必須	内海 健二(非常勤) (実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい] 資本主義経済の仕組みと現代の経済社会の構造を踏まえ、医療福祉における経済の仕組みを理解することで、経営に関する基礎的知識を養う。</p> <p>[授業終了時の達成課題(行動目標)] 1.市場経済の基本的仕組みについて説明できる。 2.医療や介護を絶対視せず経済社会のなかに相対的に位置付けて見ることができる。</p> <p>【実務経験】内海健二:総合病院の経営に関わる事務職としての実務経験有する 医療人としての経済観念の醸成が培えるよう事例を用いながら授業を展開する</p> <p>【準備学習】前回の授業の復習をして授業に臨む</p>			
[授業の内容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	授業の概要		
	経済学	市場 価格の決定	
2	"	インフレとデフレ 円高と円安	
3	医療経済学	日本の財政(社会保障費)	
4	"	医療サービスの特質	
5	"	医療を取り巻く環境の変化 ①	
6	"	医療を取り巻く環境の変化 ②	
7	医療経営学	経営管理	
8	"	病院の組織	
	試験	上記終了後、期末試験	
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
・適宜資料配布予定 ・必要時資料配布		1)科目終了時の最終試験の評価(筆記試験):100%	

授業進捗計画(シラバス)

科目名	学科/学年	年度	授業形態
英語コミュニケーション	看護学科/4年次	令和6年度	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回	1単位(30時間)	必須	ティム・マティソン(非常勤) (実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい] 読解力と語学力の基礎を身につけ、国際化への関心をもつ。</p> <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)] 1.自分の意思を英語で伝えられる。 2.初級レベルの医学関係の英単語・表現が分かる。</p> <p>【実務経験】ティム・マティソン:実務経験有 初級レベルの日常英語や医学英語を理解できるよう、学生の興味を引き出せる授業を工夫する</p> <p>【準備学習】前回の授業の復習をして授業に臨む</p>			
[授業の内容]			
回	単元	内 容	学習のポイント
1	A. 一般英会話 B. 基本的発音練習	自分の意思、好みを伝える 子音①	・自己表現:受け取る、断る、選択する ・「L」と「R」の正しい発音の仕方
2	A. 一般英会話 B. 基本的発音練習	入国手続き 子音②	・入国審査官の質問と答え方 ・「F」、「V」、「B」、「P」の正しい発音の仕方
3	A. 一般英会話 B. 基本的発音練習	ホテルの予約 子音③	・部屋の有無、宿泊費の尋ね方など ・「S」、「SH」、「TH」の正しい発音の仕方
4	A. 一般英会話 B. 基本的発音練習	道案内 母音①	・道順を尋ね、理解する ・「A」、「E」、「O」の正しい発音の仕方
5	A. 一般英会話 B. 基本的発音練習	許可を求める - 言葉遣い 母音②	・やるべきこととやっちゃいけないことの尋ね方 ・「O」、「EE」、「AR-ER」の正しい発音の仕方
6	A. 一般英会話 B. 医療英会話	海外で病気になったら 患者に尋ねる①	・病名、身体各部分の名称、状態の説明の仕方 ・個人情報、身体の状態についての尋ね方
7	A. 一般英会話 B. 医療英会話	約束を作る 患者に尋ねる②	・招待の仕方、受ける・断る方法、予定の変更の仕方 ・病歴、家族についての尋ね方
8	A. 一般英会話 B. 医療英会話	食事を注文する 病歴について尋ねる	・料理の説明を求め、注文する方法 ・病歴、特に重病についての尋ね方
9	A. 一般英会話 B. 医療英会話	自己紹介 睡眠について	・自分や家族に関する質問の答え方 ・睡眠の習慣についての尋ね方
10	A. 一般英会話 B. 医療英会話	一日のスケジュールを確認する 食生活	・予定の説明の仕方と、変えた場合の謝り方 ・食生活についての尋ね方
11	A. 一般英会話 B. 医療英会話	買い物 健康と生活習慣	・服などの値段、支払い方法についての尋ね方 ・日々の生活についての尋ね方
12	A. 一般英会話 B. 医療英会話	郵便局のサービスを利用する 痛みについて尋ねる	・切手の買い方、小包発送の依頼の仕方 ・痛みについての詳しい尋ね方、説明の仕方
13	A. 一般英会話 B. 医療英会話	落とし物 インフルエンザの症候	・忘れ物の特徴の説明の仕方 ・インフルエンザに伴う病気についての尋ね方
14	A. 一般英会話 B. 医療英会話	お別れの言葉 - お礼を言う 健康診断	・別れの挨拶の仕方 ・各検査名とそれに関わる単語を覚える
15	まとめ		
試験		上記終了後、期末試験	
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
<ul style="list-style-type: none"> ・クリスティーンのやさしい看護英会話.医学書院 ・T.マティソン, 「Medical English Series」 ・必要資料はプリントで配布 		1)科目終了時の最終試験の評価:90% 2)授業参加状況(遅刻・早退も含む):10%	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学 科 / 学 年	年 度	授 業 形 態
コミュニケーション トレーニングⅢ	看護学科/4年次	令和6年度	講義・演習・実習
授 業 の 回 数 (×90分)	単 位 数 (時 間 数)	必 須 ・ 選 択	授 業 担 当 者
8回	1単位 (16 時間)	必 須	松本美称 他
<p>〔授業の目的・ねらい〕 就職試験に向け自己分析し自己洞察を深めるとともに、社会人として対人サービスを行う上での基本的なマナーを身につける。また、新人看護師として自分の意見や感情をアサーティブに表現できる能力を身につける。</p> <p>〔授業修了時の達成課題(行動目標)〕 1.自己分析により、自己洞察した内容を記述できる。 2.社会人としての、対人関係に必要な基本的マナーを習得する。 3.新人看護師に必要なアサーティブなコミュニケーションの理解と技術を習得する。</p> <p>【実務経験】松本美称他:看護師として5年以上の実務経験 就職試験に向けて、学生がイメージし考えやすく知識習得できる授業を行う</p> <p>【準備学習】授業の復習、事前課題に取り組み授業に臨む</p>			
〔授業の内容〕			
回	単 元	内 容	学 習 の ポ イ ン ト
1	自己分析	1)就職活動を始める前に「夢」を描こう 2)「働く」とはなにか 3)就職活動の成功の鍵を握る自己分析	
2	応募・採用試験編	1)病院、施設訪問についての注意 2)履歴書の書き方の注意点 【就職部2～5回】 3)筆記試験・面接試験	
3	基本的なマナー	1)お辞儀と挨拶 2)身だしなみのポイント 3)立ち振る舞いの基本	
4	#	1)電話の応対 2)敬意を伝えるコミュニケーション 3)訪問お礼状	
5	#	1)内定お礼状 2)就職試験報告書	
6	チームの一員として 仕事を進める	1)情報の共有 2)報告・連絡・相談 3)より良いチームワークのためのマナー	
7	建設的でさわやかに 対話する	1)3つの自己表現スタイル 2)アサーティブな対人関係を築く 3)アサーティブなコミュニケーションの進め方	
8	まとめ	1)自分の考えを相手に伝える 話の聴き方 伝え方	
〔使用テキスト〕		〔単位認定の方法及び基準〕(試験等の評価方法)	
・令和6年度就職の手引き ・熱血！森吉弘の就勝ゼミ教材 ～一生役立つスキルで就職に勝つ！		1)出席状況・授業参加態度・課題にて総合評価:100%	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名 精神看護方法論Ⅱ (生活)	学科/学年 看護学科/4年次	年度 令和6年度	授業形態 講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回	1単位(30時間)	必須	藤野 裕介 宇都宮 武 (非常勤)(実務経験有)

[授 業 の 目 的 ・ ね ら い]

精神(心)に障害を持つことにより、引き起こされる日常生活行動について、その意味について考えることができ、対象を全人的に把握するために必要な系統的情報について学ぶ。精神保健福祉医療に関する法律の理解と共に、精神看護における援助の実際について学ぶことができる。

[授 業 修 了 時 の 達 成 課 題 (行 動 目 標)]

1. 精神科看護における対象を「生活者」として捉えることができる。
2. 精神科看護における「治療的役割」と「日常生活行動の援助」、「服薬管理」について説明することができる。
3. 入院という「生活の場」での治療的かかわりについて説明できる。
4. 精神科におけるレクリエーションの意義、目的、役割について説明することができる。
5. 精神保健福祉に関する法律について説明できる。

【実務経験】藤野裕介他:看護師として5年以上の実務経験

病院における看護実践を教材とし、学生がイメージし考えやすく知識習得できる授業を行う

[準 備 学 習]

授業内容の復習ならびに次回授業の予習をテキストを用いて行う

[授 業 の 内 容]

回	単 元	内 容	学 習 の ポ イ ン ト
1	精神科における 世界の潮流	1. 世界の精神科医療の現状【1回～2回:宇都宮】 1) 世界における精神看護の現状 2) 日本の精神医療の現状	*日本と他国との精神科医療の現状 を理解する
2	精神保健福祉 をめぐる法律	2. 精神保健医療にかかわる法制度について 1) 法制度の変遷と基本的な考え方 2) 精神保健福祉法 他	*人権擁護、医療受ける、生活を支える 個人情報保護 *精神保健福祉法
3	精神科看護における 治療的かかわり	3. 精神科看護における援助の実際について【3回～5回:藤野】 1) 「治療的関わり」:コミュニケーション ① ケアを提供する上での人間関係のポイント ② ケアを通じて自分を知り、対象を理解する 2) 日常生活行動の援助 3) 服薬治療における援助 4) 疾患の特徴と援助	*コミュニケーション *看護師自身のストレス *セルフケアレベル *対人関係の把握 *抗精神薬の有害反応に対する援助 *薬の服薬方法や副作用も含む
4			
5			
6	リハビリテーション *作業療法士の先生による授業	4. 精神科リハビリテーションの考え方【6～7回:作業療法士】 1) 精神科におけるリハビリテーションの 意義・目的・役割・他職種との連携 (看護職に期待すること) 2) レクリエーションの実施方法 3) レクリエーションの実際	*レクリエーション *コラージュ療法
7	#		
8	精神科看護における	5. 「生活の場」としての治療環境【8回～11回:宇都宮】 1) 入院治療の意味を理解する 2) 入院の仕方と入院治療の目的 3) 治療的環境をつくる 4) 家族への援助 5) 他職種との連携	*実習を振り返り進めていく *入院治療の目的 *家族背景・生活体験・成育歴 *保護室、閉鎖病棟、開放病棟 *精神科病棟でのミーティング *安定した生活を継続する
9	援助の方法について		
10			
11			
12	地域包括ケア	6. 精神看護における地域包括ケア【12回～14回:藤野】 1) 地域包括ケアの現状と課題 2) 地域で生活するための原則 3) 社会資源の活用	*就労継続支援・移行支援等 *訪問看護 *グループホーム *ショートステイ
13			
14	まとめ	7. まとめ	
15	#	精神看護、精神保健に関する法制度	国家試験問題

[使 用 テ キ ス ト]

- ・出口禎子他編:精神看護学①
情緒発達と精神看護の基本 メディカ出版
- ・出口禎子他編:精神看護学②
精神障害と看護の実際 メディカ出版
- ・他、資料を適宜配布

[単 位 認 定 の 方 法 及 び 基 準] (試 験 等 の 評 価 方 法)

- 1) 科目終了時の最終試験の評価(筆記試験):100%
- 2) 授業参加状況(出席状況を含む)を考慮する

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度	授業形態
精神看護方法論Ⅲ (看護過程)	看護学科/4年次	令和6年度	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
8回	1単位(16時間)	必須	奈良 育代/徳竹 律子
<p>[授業の目的・ねらい] 精神に障害を持つ対象とその家族を対象に、根拠に基づいた看護過程の展開の方法を、主にペーパーシミュレーションによる演習を通じて展開方法を学ぶ。 退院後の生活を視野に入れた関わりを退院支援の視点で学ぶ。</p> <p>[授業終了時の達成課題(行動目標)] 1. 主な精神疾患事例の対象とその家族に必要な情報を系統的に収集できる。 2. 収集した情報に対してアセスメントができる。 3. 対象の状態を看護診断して目標設定でき、看護計画が立案できる。 4. 退院後の生活を見据えた看護について考察することができる。</p> <p>[準備学習] 既習学習の想起、調べ学習や課題に取り組み授業に臨む</p>			
[授 業 の 内 容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	看護援助するための技術	1)看護過程の展開(1-5回) 事例を通じて看護過程の展開 (患者-看護関係を理解) 事例:統合失調症	
2	〃		
3	〃		
4	〃		
5	〃		
6	〃	2)上記事例より 精神保健福祉制度の現状と課題を踏まえて 対象が望む地域生活を送るための支援について 考えることができる	事例を基に退院支援について考える
7	〃		
8	〃	3)プロセスレコードについて 自分のコミュニケーションについて振り返りができる 精神看護における相互作用についての影響を考察 できる	臨地実習での患者との関わり方を考える
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
・出口禎子他編:精神看護学① 情緒発達と精神看護の基本 メディカ出版 ・出口禎子他編:精神看護学② 精神障害と看護の実践 メディカ出版		1)事例発表と参加状況:100%	
[参考図書]			
・NANDAインターナショナル、NANDA-I看護診断 定義と分類、医学書院			

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度	授業形態																																																
リフレクションIV (精神)	看護学科/4年次	令和6年度	講義・演習・実習																																																
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者																																																
8回	1単位(16時間)	必須	奈良 育代/徳竹 律子 他																																																
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>精神看護学の対象は、乳幼児期～高齢期に至るすべての人が対象である。本科目では臨地実習で体験した事例分析をとおして、“こころの健康”と心に障害を持つ人と家族のQOL、精神障害者の危機介入に視点をあて、基礎となる理論と実践を関連づけ学びを深める。地域看護学の対象は、地域で生活しているすべての個人・家族、集団とそれらの人々が生活している地域である。臨地実習で体験した事例分析をとおして、地域の潜在している健康問題と住民のエンパワメント、保健医療サービスの公平性と施策化に視点をあて、基礎となる理論と実践を関連づけ学びを深める。</p> <p>[授業終了時の達成課題(行動目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. わが国における心の健康状態を社会の変化と関連付けて、データを示しながら説明できる。 2. 精神障害者と家族のQOLの維持・向上のために活用できる制度やサービスを法的根拠に基づき説明できる。 3. 精神障害者の危機において必要な看護を根拠に基づき説明できる。 4. わが国の人々の健康状態と保健行動の特徴をデータを示して説明できる。 5. 個々の活動事例から地域の潜在している健康問題を住民と共有し住民の主体的な活動する方法について説明できる。 6. 住民の主体的活動の支援や住民に必要な資源・サービス・制度等創る(施策化)ために必要な活動を説明できる。 <p>[準備学習]</p> <p>リフレクション内容をふまえて、基本技術や日常生活援助の目的、中範囲理論、先行研究を活用して意味づけができるよう学習する</p> <p>[授業の内容]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>単 元</th> <th>内 容</th> <th>学習のポイント</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>精神看護学実習 看護リフレクションの実際</td> <td>1)リフレクションフレームワーク</td> <td>リフレクションのフレームワーク 記述・描写→感情→評価→分析→総合 →行動計画</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td>事例紹介</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td>1)事例の分析・解釈、看護理論の適用</td> <td>文献の活用</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td>2)看護援助の意味、援助の価値</td> <td>理論の活用</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>学びの共有</td> <td>3)行ったケアの評価</td> <td>・対人関係理論 ・アンドゴラジー(成人教育理論) ・ケアリング ・セルフケア理論 ・ストレスとコーピング</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>プレゼンテーション準備</td> <td>1)事例のリフレクションから学べたこと</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7</td> <td></td> <td>2)思考を広げまとめる</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>事例発表</td> <td>1)成果発表会のための準備</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>2)スライドの最終チェック</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>1)発表・まとめ</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>試験</td> <td>上記終了後 期末試験</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>[使用テキスト]</p> <p>適宜紹介する</p> <p>[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)</p> <p>1)事例発表と参加状況:100%</p>				回	単 元	内 容	学習のポイント	1	精神看護学実習 看護リフレクションの実際	1)リフレクションフレームワーク	リフレクションのフレームワーク 記述・描写→感情→評価→分析→総合 →行動計画	2		事例紹介		3		1)事例の分析・解釈、看護理論の適用	文献の活用	4		2)看護援助の意味、援助の価値	理論の活用	5	学びの共有	3)行ったケアの評価	・対人関係理論 ・アンドゴラジー(成人教育理論) ・ケアリング ・セルフケア理論 ・ストレスとコーピング	6	プレゼンテーション準備	1)事例のリフレクションから学べたこと		7		2)思考を広げまとめる		8	事例発表	1)成果発表会のための準備				2)スライドの最終チェック				1)発表・まとめ			試験	上記終了後 期末試験	
回	単 元	内 容	学習のポイント																																																
1	精神看護学実習 看護リフレクションの実際	1)リフレクションフレームワーク	リフレクションのフレームワーク 記述・描写→感情→評価→分析→総合 →行動計画																																																
2		事例紹介																																																	
3		1)事例の分析・解釈、看護理論の適用	文献の活用																																																
4		2)看護援助の意味、援助の価値	理論の活用																																																
5	学びの共有	3)行ったケアの評価	・対人関係理論 ・アンドゴラジー(成人教育理論) ・ケアリング ・セルフケア理論 ・ストレスとコーピング																																																
6	プレゼンテーション準備	1)事例のリフレクションから学べたこと																																																	
7		2)思考を広げまとめる																																																	
8	事例発表	1)成果発表会のための準備																																																	
		2)スライドの最終チェック																																																	
		1)発表・まとめ																																																	
	試験	上記終了後 期末試験																																																	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度	授業形態
在宅看護方法論Ⅱ(展開)	看護学科/4年次	令和6年度	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回	1単位(30時間)	必須	松原文子(非常勤)/林晶子(実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい] 疾病や障害をもちながら在宅で療養する在宅療養者と家族を生活者と捉え、看護における生活支援の実際を学ぶ。</p> <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 在宅看護を必要とする療養者と家族を支援する社会資源の活用や関連職種との連携について理解できる。 訪問看護の事例演習をとおして、在宅療養者・家族の健康や生活状態に応じた生活支援のための具体的な援助方法について理解できる。 <p>【実務経験】松原文子・林晶子:保健師・看護師として5年以上の実務経験 地域や病院での看護実践を教材とし、学生が学びやすい工夫を行い授業を行う</p> <p>【準備学習】 授業内容の復習ならびに次回授業内容の予習をテキストを用いて行う</p>			
[授業の内容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	在宅看護における看護過程	1. 在宅療養者・家族を一単位と捉える 2. 在宅看護を学ぶ3つの視点	在宅看護の場を知る 在宅看護の仕組みを知る 在宅看護の方法を知る
2			
3	社会資源の活用	1. 社会資源とは何か 【3-4回 松原文子】 1) 社会資源とは 2) 制度とサービス 2. 訪問看護ステーションの管理・運営 3. サービス調整・支援機関 4. 通所施設、短期入所施設	・社会資源の種類 ・介護保険制度、障害者自立支援法 ・訪問看護制度 ・居宅介護支援センター 地域包括支援センター
4			
5	家族をみる視点	1. ICFモデル 2. セルフケア理論 3. ウェルネス志向	・ICFモデル 生活機能、心身機能、活動、参加
6	在宅療養者と家族への在宅看護の実際①	1. 長期臥床状態にある療養者と家族への看護(脳血管疾患後遺症) 1) アセスメントの視点 2) 療養者・家族への援助のポイント 3) 社会資源の活用	・残存機能の維持・活用 ・合併症の予防と対策、褥瘡ケア ・社会資源の活用
7			
8			
9	在宅療養者と家族への看護の実際	1. 実習事例による看護過程の展開 各実習グループでまとめる	・アセスメントの視点 ・療養者・家族の理解と援助 ・社会資源の活用、関連職種との連携
10			
11	〃	2. 療養生活から在宅看取りまでの看護の実際	
12	〃	【訪問看護認定看護師 11/12回】	
13	演習内容の検討・発表	事例演習内容のグループ内検討 事例演習内容のグループ間検討	
14			
15	まとめ	まとめ	
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
・梶 有桂他編:在宅看護論① 地域療養を支えるケア メディカ出版 ・梶 有桂他編:在宅看護論② 在宅療養を支える技術 メディカ出版 [参考文献] ・単元に関係する看護学のテキスト		1)科目終了時の最終試験の評価:100% 2)授業参加状況(出席状況を含む)を考慮 3)訪問看護認定看護師の講義受講後のレポート提出	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名 リフレクションV (在宅・統合)	学科/学年 看護学科/4年次	年度 令和6年度	授業形態 講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
8回	1単位(16時間)	必須	林 晶子/南原由理子他 (実務経験有)

[授業の目的・ねらい]

看護の対象は人間であり、看護の基本理念は「生命の尊重」である。本科目では、在宅看護論実習で体験した事例を素材にして、日々の臨地実習の中から看護の意味と価値を見出し、次の看護につなげていくためにはどうしたらいいのか。このような問題と向き合うために、自らが実践した看護を振り返り、内容を記述し、理論などを基盤にグループ員とともに分析と解釈を行うことが必要である。この過程を踏むことで複雑な現象を解く考え方が身についていく。更に社会で働くチームの一員として、医療及び他職種との協働の中で看護師として、看護を統括的に展開・実践できるよう基礎となる理論と実践を関連付けて学びを深める。

[授業終了時の達成課題(行動目標)]

1. 看護リフレクションとは何かについて説明できる。
2. 臨地実習での事例を基に、研究的なリフレクションでの学びを説明することができる。
3. 看護リフレクションでの学びを共有し、思考の広がりを説明できる。
4. 看護リフレクションのグループ学習の成果を発表することができる。

【実務経験】林晶子、南原由理子:看護師として5年以上の実務経験

学生が臨地実習での体験よりテーマを選択し、看護援助の意味づけができるよう支援する

【準備学習】

リフレクション内容をふまえて、中範囲理論、先行研究を活用して意味づけができるよう学習する

[授業の内容]

回	単 元	内 容	学習のポイント
1	看護とリフレクション	1)臨地実習における看護実践と看護経験 2)看護の経験の質とは何か、リフレクションとは何か	リフレクションのフレームワーク 記述・描写→感情→評価→分析 →総合→行動計画
2	在宅看護論実習 看護の統合と実践実習	1)リフレクションフレームワーク 2)事例の紹介	看護の基本姿勢の理解 ・人間関係論 ・セルフケア理論 ・家族理論
3	看護リフレクションの実際	1)事例の分析・解釈 2)看護理論の適用	人間の心理行動の理解 ・コーピング理論
4	＃	1)援助の意味、援助の価値 2)行ったケアの評価	・不安、悲嘆、対象喪失 看護援助、患者教育への活用
5	＃	1)事例のリフレクションから学べたこと 2)思考を広げまとめる	・エンパワーメント理論 ・自己効力感 ・ソーシャルサポート
6	学びの共有	1)成果発表会のための準備	・複数事例を受け持ち情報の整理 ・チームメンバー・リーダーシップ
7	プレゼンテーション準備	1)スライドの最終チェック 2)発表原稿作成	・看護実践しながらの時間管理 ・他職種間の情報共有・調整 ・病院組織内の報告・連絡・相談の実際
8	事例発表	1)発表 2)まとめ	・チームとしての看護の役割 ・認定看護師としての院内における役割
			文献の活用 振り返り、十分に思考する パワーポイントの仕上げ

[使用テキスト]

- ・臺有桂他編:在宅看護論①
地域療養を支えるケア メディカ出版
- ・臺有桂他編:在宅看護論②
在宅療養を支える技術 メディカ出版

[参考文献]

- ・単元に関係する看護学のテキスト

[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)

1)事例発表と参加状況:100%

- ・看護の統合と実践実習50%
- ・在宅看護論実習50%

それぞれ発表と取り組み状況を評価表に基づき評価する

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度	授業形態																																																																																																						
看護管理論 (マネジメント)	看護学科/4年次	令和6年度	講義・演習・実習																																																																																																						
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者																																																																																																						
15回	1単位(30時間)	必須	細川 克美他(非常勤) (実務経験有)																																																																																																						
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>看護管理の担い手は看護職自身であり、看護サービスの提供はミクロ・マクロの視点から複眼的に捉える必要がある。つまり、ベッドサイドあるいは担当地区の業務管理からはじまり制度・政策にまでかかわる。そこで、本科目では看護マネジメントとして、保健医療福祉における看護の役割と責務を理解し、さまざまな場面で求められる看護マネジメント、変化する社会のニーズに対応できる質の高い看護の提供に向けてのシステム作りを学修する。またリスクマネジメントでは看護事故防止と情報管理の側面からヒューマンエラーの防止に留まらず組織としてのシステム化からエラーレジスタント・エラートレラントについて看護サービスの質保証との関連から展開する。</p> <p>[授業終了時の達成課題(行動目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護に求められるマネジメント機能を説明できる。 2. 看護提供のシステムを理解するとともに、新たなシステム作りの必要性を説明できる。 3. 医療現場のリスクマネジメントの基本的な考え方を説明できる。 4. 看護事故防止のために必要な具体的対策について提案できる。 5. 看護倫理、医療倫理、被援助者の権利について自己の見解を述べるができる。 <p>[実務経験]細川克美:看護師として5年以上の実務経験 病院における看護管理実践を教材とし、学生がイメージし考えやすく知識習得できる授業を行う</p> <p>[準備学習] 授業内容の復習ならびに次回授業内容の予習をテキストを用いて行う</p> <p>[授業の内容]</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>単 元</th> <th>内 容</th> <th>学習のポイント</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>看護とマネジメント</td> <td>1)人々の生活と看護の役割【外部講師:細川先生】 2)看護職の活動の変遷</td> <td>・看護と看護職 ・日本の社会制度における看護職</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>〃</td> <td>1)看護管理の基本 何のために管理をするのか</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>ケアのマネジメント</td> <td>1)チーム医療・福祉【学内教員】</td> <td>・チーム医療</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>〃</td> <td>2)他職種理解と連携</td> <td>・他職種理解</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>〃</td> <td>3)協働するための視点とスキル</td> <td>・チームメンバーとの情報共有と協力</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>〃</td> <td>4)チームの一員のために求められる行動</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>看護サービスの</td> <td>1)マネジメントプロセス【外部講師:阿部看護部長】</td> <td>・看護マネジメント</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>マネジメント</td> <td>2)看護管理システム</td> <td>・看護マネジメントシステム</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>1)組織とその構造・機能</td> <td>・看護提供システム</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>2)分業と協働の仕組み</td> <td>機能別看護方式、受け持ち看護方式 チームナーシング、固定チームナーシング プライマリーナーシング、モジュール型 パートナーシップ、セル看護提供方式</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>医療安全</td> <td>1)医療安全の意味【外部講師:酒井副看護部長】</td> <td>・ヒューマンエラー</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td></td> <td>2)法的規定と医療安全</td> <td>・インシデント・リスクマネジメント</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>3)医療事故と安全対策</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>4)医療事故後の対応</td> <td></td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>看護をとりまく諸制度</td> <td>1)看護組織の活動と倫理【外部講師:細川先生】</td> <td>・看護職の倫理綱領</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>〃</td> <td>2)医療・看護の質改善</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>〃</td> <td>3)組織変革とは</td> <td></td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>マネジメントに必要な知識と技術</td> <td>1)専門職とは【外部講師:細川先生】</td> <td>・ゼネラリストとスペシャリスト</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>2)看護職の生涯学習</td> <td>・看護実践の質の向上 認定看護師、専門看護師、特定行為</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>看護サービス管理における今日的課題</td> <td>1)看護マネジメントに関係する主な法律</td> <td>・保健師助産師看護師法</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>2)看護の関連機関と団体【外部講師:細川先生】</td> <td>・国際看護師協会・日本看護協会</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめ</td> <td>まとめ【学内教員】</td> <td>・看護管理確認テスト</td> </tr> <tr> <td></td> <td>試験</td> <td>上記終了後 期末試験</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>[使用テキスト]</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">吉田 千文他編:看護の統合と実践① 看護管理</td> <td>[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>1)科目終了時の最終試験の評価:100%</td> </tr> <tr> <td></td> <td>2)認定看護師講義後 レポート提出</td> </tr> </table>				回	単 元	内 容	学習のポイント	1	看護とマネジメント	1)人々の生活と看護の役割【外部講師:細川先生】 2)看護職の活動の変遷	・看護と看護職 ・日本の社会制度における看護職	2	〃	1)看護管理の基本 何のために管理をするのか		3	ケアのマネジメント	1)チーム医療・福祉【学内教員】	・チーム医療	4	〃	2)他職種理解と連携	・他職種理解	5	〃	3)協働するための視点とスキル	・チームメンバーとの情報共有と協力	6	〃	4)チームの一員のために求められる行動		7	看護サービスの	1)マネジメントプロセス【外部講師:阿部看護部長】	・看護マネジメント	8	マネジメント	2)看護管理システム	・看護マネジメントシステム			1)組織とその構造・機能	・看護提供システム			2)分業と協働の仕組み	機能別看護方式、受け持ち看護方式 チームナーシング、固定チームナーシング プライマリーナーシング、モジュール型 パートナーシップ、セル看護提供方式	9	医療安全	1)医療安全の意味【外部講師:酒井副看護部長】	・ヒューマンエラー	10		2)法的規定と医療安全	・インシデント・リスクマネジメント			3)医療事故と安全対策				4)医療事故後の対応		11	看護をとりまく諸制度	1)看護組織の活動と倫理【外部講師:細川先生】	・看護職の倫理綱領	12	〃	2)医療・看護の質改善			〃	3)組織変革とは		13	マネジメントに必要な知識と技術	1)専門職とは【外部講師:細川先生】	・ゼネラリストとスペシャリスト			2)看護職の生涯学習	・看護実践の質の向上 認定看護師、専門看護師、特定行為	14	看護サービス管理における今日的課題	1)看護マネジメントに関係する主な法律	・保健師助産師看護師法			2)看護の関連機関と団体【外部講師:細川先生】	・国際看護師協会・日本看護協会	15	まとめ	まとめ【学内教員】	・看護管理確認テスト		試験	上記終了後 期末試験		吉田 千文他編:看護の統合と実践① 看護管理	[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)		1)科目終了時の最終試験の評価:100%		2)認定看護師講義後 レポート提出
回	単 元	内 容	学習のポイント																																																																																																						
1	看護とマネジメント	1)人々の生活と看護の役割【外部講師:細川先生】 2)看護職の活動の変遷	・看護と看護職 ・日本の社会制度における看護職																																																																																																						
2	〃	1)看護管理の基本 何のために管理をするのか																																																																																																							
3	ケアのマネジメント	1)チーム医療・福祉【学内教員】	・チーム医療																																																																																																						
4	〃	2)他職種理解と連携	・他職種理解																																																																																																						
5	〃	3)協働するための視点とスキル	・チームメンバーとの情報共有と協力																																																																																																						
6	〃	4)チームの一員のために求められる行動																																																																																																							
7	看護サービスの	1)マネジメントプロセス【外部講師:阿部看護部長】	・看護マネジメント																																																																																																						
8	マネジメント	2)看護管理システム	・看護マネジメントシステム																																																																																																						
		1)組織とその構造・機能	・看護提供システム																																																																																																						
		2)分業と協働の仕組み	機能別看護方式、受け持ち看護方式 チームナーシング、固定チームナーシング プライマリーナーシング、モジュール型 パートナーシップ、セル看護提供方式																																																																																																						
9	医療安全	1)医療安全の意味【外部講師:酒井副看護部長】	・ヒューマンエラー																																																																																																						
10		2)法的規定と医療安全	・インシデント・リスクマネジメント																																																																																																						
		3)医療事故と安全対策																																																																																																							
		4)医療事故後の対応																																																																																																							
11	看護をとりまく諸制度	1)看護組織の活動と倫理【外部講師:細川先生】	・看護職の倫理綱領																																																																																																						
12	〃	2)医療・看護の質改善																																																																																																							
	〃	3)組織変革とは																																																																																																							
13	マネジメントに必要な知識と技術	1)専門職とは【外部講師:細川先生】	・ゼネラリストとスペシャリスト																																																																																																						
		2)看護職の生涯学習	・看護実践の質の向上 認定看護師、専門看護師、特定行為																																																																																																						
14	看護サービス管理における今日的課題	1)看護マネジメントに関係する主な法律	・保健師助産師看護師法																																																																																																						
		2)看護の関連機関と団体【外部講師:細川先生】	・国際看護師協会・日本看護協会																																																																																																						
15	まとめ	まとめ【学内教員】	・看護管理確認テスト																																																																																																						
	試験	上記終了後 期末試験																																																																																																							
吉田 千文他編:看護の統合と実践① 看護管理	[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)																																																																																																								
	1)科目終了時の最終試験の評価:100%																																																																																																								
	2)認定看護師講義後 レポート提出																																																																																																								

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度	授業形態																																																																				
国際看護論	看護学科/4年次	令和6年度	講義・演習・実習																																																																				
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者																																																																				
15回	1単位(30時間)	必須	松本美称/徳竹律子他																																																																				
<p>【授業の目的・おらい】 国際看護には他国における看護実践と、自国において人種、文化、価値観などを異にする在日外国人を対象とした看護実践がある。本科目では国際交流、国際協力における看護職の役割を、異文化の対象について、基本的知識・技術を学ぶ。また、在日外国人との交流を通して他国の文化・保健医療の現状を理解し、今後さらに増加が見込まれている在日外国人への看護と基本姿勢を養う。</p> <p>【科目修了時の達成課題(行動目標)】 1. 国際看護活動の支援を必要とする対象と推進する人や機関について説明できる。 2. 国際看護活動の実際の場面で活躍する人の話を聞き、国際社会における日本の役割が説明できる 3. 在日外国人との交流を通して、異文化を対象とした看護の必要性和保健医療の課題について説明できる。</p> <p>【準備学習】 授業内容の復習ならびに次回授業内容の予習をテキストを用いて行う</p> <p>【授業の内容】</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>単 元</th> <th>内 容</th> <th>学習のポイント</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>国際看護とは</td> <td>1)看護職になぜ国際的な視点が求められるか 2)国際看護の必要性</td> <td>・国際看護の活動と歴史 ・WHOの役割 ・異文化看護</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>国内の在日外国人への看護活動</td> <td>1)「国際看護」と「在日外国人」 2)在日外国人とは 3)在日外国人への看護活動</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>異文化の対象理解</td> <td>1)在日外国人が日本で働くということ 2)日本での生活の課題について</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>在日外国人の理解</td> <td>1)他国の文化の理解 2)保健医療の現状の理解 3)異なる言語を話す対象の理解 3)日本語学科の学生との交流 4)海外における文化の違いや保健医療福祉について対話する</td> <td>2コマ 予習(グループ学習) ・国際交流授業に向けて、海外留学生の国の文化や医療福祉制度について予習する ・他国の保健看護の現状を知り在日外国人に対する看護の役割や課題についてグループ学習を行う。</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>6</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>国民衛生の動向を読み解く</td> <td>衛生行政活動の概況 保健医療分野における国際協力 世界保健機構(WHO)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>海外の現状を知る</td> <td>国際社会の現状について</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>国際看護活動の実際</td> <td>保健看護分野で活動した経験のある看護職の方より活動内容についての講義</td> <td></td> </tr> <tr> <td>10</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>JICAで活躍されている看護職の方の特別講演</td> <td>特別講演 【うどんハウスNGO 楠川富子先生】 海外における健康観、病気対処行動 活動内容や看護観など</td> <td>・レポート作成 特別講義後の学びのレポート</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>異文化の対象における看護</td> <td>【海外での活動経験のある教員からの特別講義】 海外での活動経験のある教員</td> <td></td> </tr> <tr> <td>14</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめ</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>試験</td> <td>上記、終了後 期末試験</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				回	単 元	内 容	学習のポイント	1	国際看護とは	1)看護職になぜ国際的な視点が求められるか 2)国際看護の必要性	・国際看護の活動と歴史 ・WHOの役割 ・異文化看護	2	国内の在日外国人への看護活動	1)「国際看護」と「在日外国人」 2)在日外国人とは 3)在日外国人への看護活動		3	異文化の対象理解	1)在日外国人が日本で働くということ 2)日本での生活の課題について		4	在日外国人の理解	1)他国の文化の理解 2)保健医療の現状の理解 3)異なる言語を話す対象の理解 3)日本語学科の学生との交流 4)海外における文化の違いや保健医療福祉について対話する	2コマ 予習(グループ学習) ・国際交流授業に向けて、海外留学生の国の文化や医療福祉制度について予習する ・他国の保健看護の現状を知り在日外国人に対する看護の役割や課題についてグループ学習を行う。	5				6				7	国民衛生の動向を読み解く	衛生行政活動の概況 保健医療分野における国際協力 世界保健機構(WHO)		8	海外の現状を知る	国際社会の現状について		9	国際看護活動の実際	保健看護分野で活動した経験のある看護職の方より活動内容についての講義		10				11	JICAで活躍されている看護職の方の特別講演	特別講演 【うどんハウスNGO 楠川富子先生】 海外における健康観、病気対処行動 活動内容や看護観など	・レポート作成 特別講義後の学びのレポート	12				13	異文化の対象における看護	【海外での活動経験のある教員からの特別講義】 海外での活動経験のある教員		14				15	まとめ				試験	上記、終了後 期末試験	
回	単 元	内 容	学習のポイント																																																																				
1	国際看護とは	1)看護職になぜ国際的な視点が求められるか 2)国際看護の必要性	・国際看護の活動と歴史 ・WHOの役割 ・異文化看護																																																																				
2	国内の在日外国人への看護活動	1)「国際看護」と「在日外国人」 2)在日外国人とは 3)在日外国人への看護活動																																																																					
3	異文化の対象理解	1)在日外国人が日本で働くということ 2)日本での生活の課題について																																																																					
4	在日外国人の理解	1)他国の文化の理解 2)保健医療の現状の理解 3)異なる言語を話す対象の理解 3)日本語学科の学生との交流 4)海外における文化の違いや保健医療福祉について対話する	2コマ 予習(グループ学習) ・国際交流授業に向けて、海外留学生の国の文化や医療福祉制度について予習する ・他国の保健看護の現状を知り在日外国人に対する看護の役割や課題についてグループ学習を行う。																																																																				
5																																																																							
6																																																																							
7	国民衛生の動向を読み解く	衛生行政活動の概況 保健医療分野における国際協力 世界保健機構(WHO)																																																																					
8	海外の現状を知る	国際社会の現状について																																																																					
9	国際看護活動の実際	保健看護分野で活動した経験のある看護職の方より活動内容についての講義																																																																					
10																																																																							
11	JICAで活躍されている看護職の方の特別講演	特別講演 【うどんハウスNGO 楠川富子先生】 海外における健康観、病気対処行動 活動内容や看護観など	・レポート作成 特別講義後の学びのレポート																																																																				
12																																																																							
13	異文化の対象における看護	【海外での活動経験のある教員からの特別講義】 海外での活動経験のある教員																																																																					
14																																																																							
15	まとめ																																																																						
	試験	上記、終了後 期末試験																																																																					
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)																																																																					
[参考図書]		1)科目終了時の最終試験の評価:100%																																																																					
・知って考えて実践する国際看護:医学書院		最終試験受験資格:課題レポートを提出している者																																																																					
・今がわかる時代がわかる世界地図:成美堂		事前課題を提出している者																																																																					
・他 適宜資料配布																																																																							

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度	授業形態
看護研究Ⅱ(実践)	看護学科/4年次	令和6年度	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回	1単位(30時間)	必須	松本美称他 (実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい] 看護研究Ⅰで学んだことを自らの臨床実習経験事例について、「事例研究の手法」を用いてまとめる。これまでに習得した知識・技術・態度を統合して看護研究に取り組み、卒後の研究活動への基礎づくりとするとともに、看護研究は卒後も継続するものである意識を深める。</p> <p>[授業終了時の達成課題(行動目標)] 1. 事例研究の手法を理解して、倫理的配慮がされた研究計画を立案できる。 2. 研究目的に適したキーワードを使って文献検索ができる。 3. 研究計画書に沿って収集したデータを適切に分析して論理的に考察し論文としてまとめることができる。 4. 研究成果を発表できる。 5. 研究論文をクリティカルに評価できる。</p> <p>[実務経験]松本美称:看護師として5年以上の実務経験 学生の既修得学習内容である研究の基礎的知識をふまえて症例研究が能動的に進められるよう支援する</p> <p>[準備学習] 看護実践内容をふまえて、症例研究のための調べ学習や文献検討に臨む。主体的に論文を作成し指導を受ける。</p>			
[授業の内容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	研究方法の検討 オリエンテーション	全体オリエンテーション	・看護研究Ⅰの内容の復習 看護研究とは何か 文献レビューは何のためにするのか ・看護研究の進め方について 理解ができる ・抄録集作成委員、発表会委員の選出
2	領域ごとの 教員による指導	研究課題 概念枠組み 文献検討 倫理的配慮 研究方法 ・事例研究 1事例を深めていく ・領域 成人看護学 母性看護学 小児看護学 老年看護学	・研究方法 事例研究 事例研究について理解を深める 先行文献は3つ以上確認する ・事例研究を通じて研究とは 何かを理解できる A4レポート用紙20枚程度にまとめる ・原則として個人で目的を明確にして 「中範囲理論」を使って分析する
	研究の取り組み	研究の枠組み 論文作成 抄録集作成 発表会の企画	・成果発表会の進行について 司会、記録、タイム管理は 学生間で役割分担
11	研究成果の発表 発表会の運営	研究成果発表会	
	自己評価・他者評価	相互評価	
15	まとめ	研究論文集の作成(製本)	
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
川村佐和子他編:基礎看護学① 看護研究 メディカ出版 松本学・森田夏実:わかりやすいケーススタディの進め方 -研究テーマの設定からレポート作成のポイントまで、照 林社、2013年		1)最終事例研究論文 2)出席状況:遅刻・早退を含む	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度	授業形態
看護の展望	看護学科/4年次	令和6年度	講義 演習 ・ 実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回	1単位 (30 時間)	必須	吉田展子/森直美/南原由理子 (実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい] 看護学会誌や看護職能集団の活動誌、看護に関連するボランティア団体の活動誌、看護系雑誌等を経年的に熟読したり、実際に活動に参加することにより、最新の研究及び社会の看護への期待を把握し、看護を展望するとともに看護の可能性を考察する。またこれまで受け持った患者の看護実践を振り返り、その患者や家族が本来の生活の場である地域(コミュニティ)で生き生きと暮らすための看護について考察する。そのことを通して自己の看護観を明らかにする。</p> <p>[授業終了時の達成課題(行動目標)] 1. 学会誌、看護に関連する活動誌や雑誌を熟読することで、最新の研究及び社会が期待する看護の役割を把握する。 2. 看護学会等に参加することで、今後の看護を展望できる。 3. 学外のボランティアに自主的に参加し、住民他多くの他職種の人々とのかかわりを通じて看護に期待されていることを実感し看護の可能性を考察する。 4. 自己理解・他者理解を深め、自己の看護観をまとめて発表することで卒業後の看護実践を自覚する。</p> <p>[実務経験]吉田、森、南原:看護師として5年以上の実務経験 わが国の動向、看護への期待、研究報告等を活用し、看護を展望するとともに看護の可能性を考察できるよう支援する</p> <p>[準備学習]事前課題等に取り組み授業に臨む</p>			
[授業の内容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	授業のガイダンス	1)本単元の進め方 2)学会や学外活動の紹介 3)各自で学習計画作成	学習内容選択の視点 ・これまでの学習で関心が深まった看護分野 ・現在問題・課題となっている看護 例1. 災害看護 例2. 救急看護 例3. 国際看護 例4. 在宅看護 例5. 認定看護師・専門看護師
2	計画に沿った学習展開 学内学術発表会	1. 学内学術発表会 1)学内学術発表会に参加 2)他学科との学びの共有・意見交換	【学内学術集会】 ・卒業前 学内学術集会に参加 ・他職種理解 ・他学科との交流
3	＃	3)レポートの作成と提出	
4	計画に沿った学習展開 看護系学会参加	2. 看護系学会の参加 1)学会誌、看護に関連する活動誌や雑誌を熟読 2)学会参加(対面またはオンライン) 3)レポートの作成と提出	
5	＃		【参加可能な学会例】 ・香川県内で開催される学会 ・近県で開催される日本看護協会 主催の学会 ・近県で開催される災害等看護学会
6	＃		
7	＃		
8	＃		
9	計画に沿った学習展開 看護観作成	3.看護観 1)看護観とは 2)自身の看護観を明確にする 3)看護観の作成・明確化 ・なぜ看護師になりたいと思ったのか ・心に残っている看護場面、体験内容 ・なぜそれが心に残っているか考えたこと	【看護観発表およびレポートのポイント】 ・学習内容を選択した動機 ・学習経過 ・学び 社会が求めている看護と課題 看護の展望 学生個々の課題と自己研鑽の 方向性等 ・自分の看護への思いを自分の言葉で 伝えられる どんな看護をしたいか今後の目標
10	＃		
11	＃		
12	＃		
13	＃		
14	＃	4)教員とのディスカッション 5)看護観発表 6)看護観を明確する 個々の課題の明確にする 今後の目標	
15	まとめ	看護の可能性を考察	就職先へ看護観送付 看護師国家試験願書作成 厚生労働省HP.看護協会HP
【使用テキスト】		【単位認定の方法及び基準】(試験等の評価方法)	
必要時資料配布		1)学外研修・学会参加報告書及び最終レポートの評価:100%	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度	授業形態
救急蘇生法Ⅲ	看護学科/4年次	令和6年度	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回	1単位(30時間)	必須	吉川 圭(非常勤) (実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい] 近年、病院施設において病院施設内急変における対応能力の向上が強く求められるようになってきている。2010年の「心臓血管蘇生に関する国際ガイドライン2010」では、早期の心肺蘇生開始と早期除細動、つまり一次救命処置の重要性が強調されており、病院施設内においては、心停止から3分以内の電気的除細動実施を推奨している。早期に一次救命処置を適切に実施できる医療者として、病院施設内急変の第1発見者になる可能性が最も高い看護師による自動体外式除細動器(Automated External Defibrillator:AED)を用いた除細動の実施は、救命率の向上に貢献できると考えられる。 看護基礎教育においても心肺蘇生法は基本的な看護技術の一つであり、この技術を確実に習得することは有意義である。そこで一次救命処置(Basic Life Support:BLS)についての知識や技術を深め、BLSの資格を得ることをめざす。</p> <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)] 1.急変患者に対する蘇生技術の理解ができる。 2.急変患者に対する蘇生技術の実施ができる。 3.日本循環器学会によるBLS資格取得をめざす。</p> <p>[実務経験]吉川圭:医師ならびに日本循環器学会におけるコースディレクターとして豊富な経験を有する。 科学的根拠もとづく正確な技術習得が図れるよう授業展開する。</p> <p>[準備学習] 救急蘇生に関する既習学習内容を復習して授業に臨む</p>			
[授業の内容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1 2	BLSとは	1)授業の進め方 ・ACSへの対応 ・成人を対象とするBLS ・小児を対象とするBLS	講義と実技演習を組み合わせ、講義を内容の小テスト、実技試験を取り入れ実施する
3 4 5	脳血管障害 循環器障害	1)脳血管障害患者への対応 1)電気ショックとCPRの優先順位 2)病院内Medical Emergency Team	各代表的疾患においては、事前学習を行い講義内容と関連させる
6 7	頸椎損傷	1)頸損疑いの気道確保 ・頸椎の非動化	成人の定義 思春期以降の年齢層を成人として対応する(年齢としては15歳超をとす)
8 9	溺水	1)溺水 ・偶発性低体温症 ・発見時の対応手順 ・通報とCPR開始の優先順位 ・呼吸の確認 ・回復体位 ・呼吸の確認 ・回復体位	小児の定義 1歳から思春期以前(年齢として15歳程度、中学生までとする) 乳児は1歳未満とする
10 11 12	まとめ BLS演習 BLSプロバイダー研修	一次救命処置 事前演習 1)胸骨圧迫なしの人工呼吸 2)心停止の確認 3)CPRの開始手順 4)人工呼吸 ・胸骨圧迫の位置・方法・評価・中断時期 5)C・V比 6)AEDプロトコール	
15	試験	上記、終了後 期末試験	
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
1)これまでに使用したテキスト及び資料 2)BLSヘルスケアプロバイダーマニュアル、シナジー出版		1)科目終了時の最終試験の評価:100% 2)BLS資格取得ができること	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度	授業形態
災害看護論	看護学科/4年次	令和6年度	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回	1単位(30時間)	必須	奈良 育代 他

[授業の目的・ねらい]

災害に対する知識を深め、災害が社会の変化や地域の人々の暮らしと密接にかかわっていることについて学ぶ。災害等の健康危機の発生時～復旧・復興期に必要な看護活動および平穏期における災害に備えるための看護活動を演習、地域コミュニティにおける防災訓練に参加する等、体験的に学ぶ。

[授業終了時の達成課題(到達目標)]

1. 災害の定義と災害看護の目的を説明できる。
2. 災害が人々の健康や生活に及ぼす影響について説明できる。
3. 災害プロセスに応じた看護支援活動について災害体験を通じて説明できる。

[準備学習]

授業の復習とシラバスをふまえてテキストにて予習して授業に臨む

[授業の内容]

回	単 元	内 容	学習のポイント
1	災害看護の概要	1) 災害看護とは 2) 近年の災害(震災)時の看護活動の実際について	
2	災害・災害看護の定義と目的	1) 災害の定義 2) 災害の分類と特性	災害の種類と疾病構造
3	"	3) 災害看護の目的 【非常勤講師】 4) 自然災害サイクルと災害医療・看護	災害サイクル
4	災害看護制度とシステム	1) 災害に対する法体系 【非常勤講師】 2) 災害支援の制度とシステム	
5	"	3) 災害支援に関する社会資源 4) 災害発生時のネットワーク	
6	災害時の支援体制	1) 災害ボランティア活動 【非常勤講師】 2) 国内外における災害関係機関の支援体制	
7	災害予防対策期の看護活動	1) 個人の備え・集団での備え 【7回:松原先生】 2) 避難のための支援必要者・実態把握	地域で災害予防期に行われている避難訓練に参加する
8	災害応急対策期の看護活動	1) 初動体制 2) 救護班・避難所での活動	
9	災害復旧・復興対策期の看護活動	1) 避難所・仮設住宅・在宅支援者への活動 2) PTSDへの対応 【非常勤講師】	
11	災害時に必要な技術	1) トリアージ 【非常勤講師】	病院等で行われている災害発生時の訓練の実際を体験する
12	"	2) 応急処置 3) 搬送	DMAT
13	病院における災害看護	1) 病院内での災害看護活動	
14	災害看護に関連する理論	1) 危機理論 【非常勤講師】	
15	まとめ	災害看護に関する問題をもとに知識確認等おこなう	
	試験	上記終了後、期末試験	

[使用テキスト]

酒井 明子他編:看護の統合と実践③ 災害看護
メディカ出版
必要時資料を配布する

[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)

学内外の授業出席ならびに授業への主体的参加と科目終了時の筆記試験をトータルして評価する

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度	授業形態
看護技術演習Ⅳ	看護学科/4年次	令和6年度	講義 演習 ・ 実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回	1単位(30時間)	必須	吉田展子/森直美/南原由理子 (実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい] 看護実践には対象者がどのような看護を必要としているかを的確に捉え、判断する能力と科学的根拠に基づいて実践する能力が必要である。ここではその基盤となる観察技術や情報収集から対象の個別性を理解し、看護の方向性を見出し実施評価する。また4年間の集大成として知識・技術・態度を統合して看護のあり方を再確認することをねらいとする。</p> <p>[授業終了時の達成課題(行動目標)] 1. 事例患者の健康状態やニードから必要な看護援助について根拠をふまえて説明できる。 2. 事例患者の健康状態やニードをふまえて、必要な看護援助を安全・安楽・自立の視点、かつ時間制約の中で実施できる。 3. 実施した援助についてリフレクションできる。</p> <p>【実務経験】吉田、森、南原:看護師として5年以上の実務経験 学生の実習到達目標をふまえ、知識・技術・態度の統合が図れるよう支援する</p> <p>【準備学習】 事例対象を理解できるよう学習に取り組む。また、事例患者に必要な看護援助を時間制約の中でできるよう練習する。</p>			
[授業の内容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	看護の統合と実践 実習	1)本単元の進め方のガイダンス	優先度の高い看護問題を抽出する 優先順位と時間配分を考慮する 業務計画の根拠を明確にする
2	演習	2)演習オリエンテーション 模擬病院・模擬患者の提示	
3	〃	3)模擬病棟での複数受け持ち患者の事例展開	
4	〃	4)看護問題の抽出と目標・計画の立案	
5	〃	5)複数患者の1日の業務計画の立案	
6	〃		
7	技術試験	6)技術試験	
8	リフレクション	7)看護マネージメント	
9	〃		
10	技術演習	1)演習オリエンテーション 事例提示	・複合技術として評価する ・原理原則に基づいた技術の演習 ・グループ内でディスカッションを積極的に行い技術を高める ・安全・安楽・自立・尊厳を考慮した技術
11	演習	2)演習	
12	演習		
13	演習		
14	技術試験	3)卒業前技術試験	
15	技術試験		
[使用テキスト] 松下由美子他編:看護の統合と実践② 医療安全 メディカ出版		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法) 1)各技術試験の評価100% *技術試験に合格した者は、以後の実習に参加することができる。授業に臨む姿勢(準備・授業態度)も評価対象とする。	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度	授業形態
総合看護セミナー I	看護学科/4年次	令和6年度	講義 演習 ・ 実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回	1単位 (30 時間)	必須	森直美 (実務経験有)

[授業の目的・ねらい]

国家試験取得に向けて、学生全員で4年間の学びを復習し知識の定着を図る。

[授業終了時の達成課題(行動目標)]

1. 既修得科目の内容について、各自で振り返り後、グループワークを通じて学びなおしたい項目を明確にできる。
2. グループワークを通じて、各項目、各科目における基本的知識・技術を確認できる。
3. 総合看護セミナー I の授業に向けて各領域における頻出項目・弱点項目が明確にできる

【実務経験】看護師として5年以上の実務経験

学生が既習学習の知識を想起あるいは復習し、確かな知識の習得となるよう能動的な学習を支援する

【準備学習】

課題等に取り組み授業に臨む

[授業の内容]

回	単 元	内 容	学習のポイント
1	授業のガイダンス	1)本単元の進め方のガイダンス 2)看護師国家試験出題基準について	看護師国家試験出題基準 2200項目
2	人体の構造と機能	以下、それぞれの単元ごとに進める	総合看護セミナー I 既修得科目の内容の復習 模擬試験の振り返り
3	疾病・回復成立促進	1)看護師国家試験出題基準の確認 2)各領域、各科目における基本的知識・技術の確認 3)各領域における弱点項目・頻出項目の確認	
4	衛生統計・社会福祉	4)出題基準2200項目の必要な知識と学びなおしたい項目	
5	基礎看護学	〃	
6	〃	〃	
7	成人看護学	〃	
8	〃	〃	
9	老年看護学	〃	
10	精神看護学	〃	
11	小児看護学	〃	
12	母性看護学	〃	
13	地域・在宅看護論	〃	
14	看護の統合と実践	〃	
15	まとめ	総合看護セミナー II に向けての準備	

[使用テキスト]

- ・国試模擬試験・国家試験の問題集
- ・スタディガイド
- ・国民衛生の動向

[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)

- 1)科目終了時の最終試験の評価:100%

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度	授業形態
総合看護セミナーⅡ	看護学科/4年次	令和6年度	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回	1単位(30時間)	必須	吉田展子/森直美/南原由理子 他 (実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい] 国家試験取得に向けて、学生全員で4年間の学びを復習し知識の定着を図る。</p> <p>[授業終了時の達成課題(行動目標)] 1. 総合看護セミナーⅠでのグループワークを通じて必要な知識と学びなおしたい項目を明確にできる。 2. 各領域、各科目における基本的知識・技術を再確認できる。 3. 各領域の看護展開に必要な基本的看護技術のポイントが説明できる。</p> <p>[実務経験] 吉田、森、南原他:看護師として5年以上の実務経験 学生が既習学習の知識を想起あるいは復習し、確かな知識の習得となるよう能動的な学習を支援する</p> <p>[準備学習] 課題等に取り組み授業に臨む</p>			
[授業の内容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	人体の構造と機能	1)本単元の進め方のガイダンス 2)総合看護セミナーⅠでの振り返り	
2	疾病・回復成立促進	3)各領域、各科目における基本的知識・技術の確認 4)各領域における弱点補強	
3	衛生統計・社会福祉		
4	基礎看護学		
5	＃		
6	成人看護学		
7	＃		
8	＃		
9	老年看護学		
10	＃		
11	精神看護学		
12	小児看護学		
13	母性看護学		
14	地域・在宅看護論		
15	看護の統合と実践		
試験		上記終了後、期末試験	
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
・国試模擬試験・国家試験の問題集 ・スタディガイド ・国民衛生の動向		1)科目終了時の最終試験の評価100%	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度	授業形態
老年看護学実習Ⅰ (認知症他)	看護学科/4年次	令和6年度	講義・演習・ 実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
	2単位(90時間)	必須	山下 美紀 他(実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 老年期にある対象の発達段階と加齢の現象および健康障害による問題を把握し、統合的に理解する。 2. 対象とその家族に応じ、臨床現場の実際に即した看護が展開できる能力を養う。 <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 老年期にある対象を身体的・精神的・社会的側面から理解し、対象の持つ問題を把握することができる。 2. 対象のセルフケア能力をふまえ、看護計画を立案し残存機能を活かした日常生活援助ができる。 3. 健康障害の複雑性・多様性を理解し、既往症や障害など、健康レベルに応じた援助ができる。 4. 看護に携わる専門職としての使命と責任を自覚して自己の老年観を見出すことができる。 <p>【実務経験】山下他:看護師として5年以上の実務経験 これまでの看護実践を活かし学生のロールモデルとなり実習目標到達に向けて支援する</p> <p>【準備学習】 実習事前オリエンテーション、実習の手引きにより実習目標・内容・方法を理解するとともに、必要な事前学習に取り組む</p> <p>[授業の内容] 実習病院において、検査・治療・処置などを受ける老年期の患者を受け持ち、以下の目標に沿って実習を行う。</p> <p style="text-align: center;">詳細は、「実習の手引き」を参照</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ライフステージにおける老年期の発達課題を考えることができる。 2. 老年期の特性を理解し、その人の死生観、生きがい等を知ることができる。 3. 老人福祉の現状と問題を知り、系統的に理解することができる。 4. 老化に伴って起こる疾病・障害に応じた、基礎的看護技術や日常生活への援助技術(入浴・洗髪介助、更衣介助、食事介助、トイレ誘導、おむつ交換など)ができる。 5. 人間としての終末期にある状態を知ることができる。 6. 社会資源の活用法を学ぶことができる。 			
【使用テキスト】 老年看護学概論老年看護学方法論Ⅰ～Ⅱで使用したテキスト及び演習で配付した資料など ・NANDA-I看護診断		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法) 実習への参加状況および度、日々の実習記録、レポート等から総合的に評価する。 (詳細については、評価表参照)	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度	授業形態
精神看護学実習	看護学科/4年次	令和6年度	講義・演習・ 実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
	2単位(90時間)	必須	奈良 育代 徳竹 律子
<p>[授業の目的・ねらい] 精神に障害をもつ対象を理解し、個別的なかかわりの中で病気としての行動や人間としての行動を理解し、対象を総合的に把握すると共に健康を回復するための看護ができる能力を養う。</p> <p>[授業終了時の達成課題(行動目標)] 1. 積極的に患者に関心に向け、精神に障害をもつ対象を身体的・精神的・社会的側面から統合的に説明できる。 2. 精神医療の特徴と看護の役割を説明できる。 3. 患者とのコミュニケーションをとる中で徐々に関わりの発展を示し、対象の健康の回復に向けた看護が展開できる。 4. 患者の立場に立って思いや行動を理解することを通して、自己の感情や行動の傾向に気づき、自己の対人関係を発展することができる能力を養う。</p> <p>[実務経験]奈良・徳竹他:看護師として5年以上の実務経験 これまでの看護実践を活かし学生のロールモデルとなり実習目標到達に向けて支援する</p> <p>[準備学習] 実習事前オリエンテーション、実習の手引きにより実習目標・内容・方法を理解するとともに、必要な事前学習に取り組む</p> <p>[授業の内容]</p> <p style="text-align: center;"><実習展開> 詳細は、「実習の手引き」を参照</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 精神患者の慢性期患者を受け持ち、看護過程を展開する。 2. それぞれ1日、急性期病棟・デイケア・懇話会・院外活動の実習を行い、慢性期との違いを知る。 3. レクリエーションを実習グループで考え、企画・実施する。 4. 実習中において関わった患者とのやりとりをプロセスレコードとして記録する。 グループミーティングを行い、新たななかかわり方を学ぶ。 5. 自分自身の振り返りを行い、接し方について学ぶ。 			
<p>[使用テキスト] ・出口禎子他編:精神看護学① 情緒発達と精神看護の基本 メディカ出版 ・出口禎子他編:精神看護学② 精神障害と看護の実践 メディカ出版 ・精神科方法論Ⅰ～Ⅲで使用したテキスト及び演習で配付した資料・「用語集」・「プロセスレコードについて」など</p>		<p>[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法) 実習への参加状況および度、日々の実習記録、レポート等から総合的に評価する。 (詳細については、評価表参照)</p>	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度	授業形態
在宅看護論実習	看護学科/4年次	令和6年度	講義・演習・ 実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
	2単位(90時間)	必須	林 晶子 他(実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい] 在宅療養支援における在宅看護の機能・役割および特性を理解し、在宅看護活動のあり方や課題について学ぶ。</p> <p>[授業終了時の達成課題(行動目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域の中で生活する療養者とその家族を総合的にとらえ、療養者とその家族が抱える問題をアセスメントし、問題解決能力を養う。 2. 地域の中で生活する療養者とその家族に対する生活支援の実際を経験することによって在宅看護の理解を深める。 3. 在宅療養者とその家族を支える必要な社会資源を理解でき、その活用方法および連携について説明することができる。 4. 在宅で生活している在宅療養者とその家族を支援する在宅看護を通じて、施設内看護の役割と機能について考察できる。 <p>[実務経験]林他:看護師として5年以上の実務経験 これまでの看護実践を活かし学生のロールモデルとなり実習目標到達に向けて支援する</p> <p>[準備学習] 実習事前オリエンテーション、実習の手引きにより実習目標・内容・方法を理解するとともに、必要な事前学習に取り組む</p> <p>[授業の内容]</p> <p style="text-align: center;">＜実習展開＞ 詳細は、「実習の手引き」を参照</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 香川県内の訪問看護ステーション、デイケア、デイサービス等において、学生を配置する。 2. 実習期間中は適宜、学内でまとめを行う。実習終了後には、学びの発表を行う。 3. 初回訪問時は実習について説明をし、対象者の同意を得る。 4. 訪問看護実習は訪問看護師に同行し1名は継続(2～3回程度)して受け持ち看護の視点より生活支援のあり方を学ぶ。 5. 対象により関係機関・関係職種との連絡会等がある場合は、可能な範囲で参加する。 6. 可能な範囲で在宅療養者とその家族を支援している社会資源に参加する。 			
<p>[使用テキスト] ・既習テキスト</p>		<p>[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法) 実習への参加状況および度、日々の実習記録、レポート等から総合的に評価する。 (詳細については、評価表参照)</p>	

授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度	授業形態
看護の統合と実践実習	看護学科/4年次	令和6年度	講義・演習・ 実習
授業時間数	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
	2単位(90時間)	必須	南原 由理子 他 (実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい] チームの一員として、医療及び他職種との協働の中で看護師としてのメンバーシップやリーダーシップを理解すると共に、看護を統括的に展開し、看護の実践能力を高めることをねらいとする。</p> <p>[授業終了時の達成課題(行動目標)] 1. 複数の対象を受け持ち、ケアの優先順位を判断し、看護実践ができる。 2. 看護チームのチームメンバー及びチームリーダーの役割を理解する。 3. 看護管理の実際を知る。 4. 診療の補助技術を安全性・効率性を考慮しながら見学及び一部実施ができる。</p> <p>[実務経験]南原他:看護師として5年以上の実務経験 これまでの看護実践を活かし学生のロールモデルとなり実習目標到達に向けて支援する</p> <p>[準備学習] 実習事前オリエンテーション、実習の手引きにより実習目標・内容・方法を理解するとともに、必要な事前学習に取り組む</p> <p>[授業の内容] <実習展開> 詳細は、「実習の手引き」を参照</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 日勤業務の1日の流れを知る。 2) 複数受け持ち制での受け持ち患者の現在の状態を把握できる。 3) 受け持ち看護師が立案した看護計画に沿って、複数の受け持ち患者に必要なその日の援助計画を立案することができる。 4) 複数の受け持ち患者に必要な援助を、優先順位を考慮して実施することができる 5) 医療チームの一員として報告・連絡・相談ができる。 6) 援助を時間内に行うなど時間管理の必要性を認識できる 7) 看護チームでの看護師の役割を理解できる 8) 医師への報告・連絡調整について理解できる。 9) チーム及びスタッフへの連絡調整が理解できる。 10) 看護部の役割が理解できる。 11) 安全管理、感染管理が理解できる。 12) 物品管理、部下の教育指導、勤務時間管理が理解できる。 13) 病院内外の部門との連絡調整について理解できる。 14) 診療の補助技術の見学と実施ができる。 			
[参考資料]		<p>[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法) 実習への参加状況および度、日々の実習記録、レポート等から総合的に評価する。 (詳細については、評価表参照)</p>	

令和6年度
授業進度計画

令和6年4月1日発行

学校法人穴吹学園 穴吹医療大学校
